

市大抗議集会<12:30> 教養芝生

本日

アメリカのカンボジア侵略糾弾
佐藤内閣の侵略加担糾弾
愛知の「アジア会議」出席抗議

4月30日、米日はカンボジアに武力介入を行い北爆を、再開し、野蛮な侵略戦争を遂げに長期化させ、全インドシナを戦火の泥沼に巻き込むとする新たな策謀を開始した。

アメリカの代弁者ニクソンは「ベトナムに在るアメリカ人の生命を守る」という口実で、この凶暴な侵略行為を合理化しようとしているがベトナムに対する侵略軍である米軍を守るために、さらに他国に侵略を開始する、この悪行はまさに帝國主義の他民族抑圧という本質を象徴しており、アジア人民の民族独立解放斗争と民族自決権に対する挑戦である。そしてこの新たな米帝國主義者による策謀はベトナム侵略戦争において、ベトナム人民の英雄的闘い、そしてそれを支援する全世界の平和を愛する全民主勢力の闘いによって、その侵略行為の破綻を宣言された彼らが深刻な政治危機に直面し、それを打開する必要性のうえに、インドシナ全人民に対する新たな挑戦、侵略行為を開始し、人民の民族解放斗争を抑圧して、なんじかして、この地域をアジア支配の足場にしようとしていることを示すものである。

アメリカの助けによって、平和、中立路線を保持していたシアヌーク政権を暴力的に転覆したロン・ヌール派とアメリカは米国内外の平和を愛する諸勢力から非難を受け、またカンボジア領内でのベトナム人民虐殺事件やインドシナ人民主権会議など、事態の進行によって孤立化を進めながらもそれ故一層、凶暴かつ陰險な策謀をこらし、侵略戦争の長期化拡大を図っている。

このような情勢の中で、日本が我々後次への事柄を、きり把握せねばならない。それは昨年7月に発表されたニクソンの「クアム、ドクトリン」の本質がいよいよ明白になってきたことである。米日は現在、深刻なドル危機、国内の平和を求める世論の盛り上がりによって、アジアの反共諸国やカライ政権を利用して「アジア人をアジア人と戦わせる」という方針をとっているが、いさ重要な問題が持ち上がると、米国が「本格的」に介入するというのである。

「平和の仮面」をかぶった侵略主義の本質が、今度のカンボジア問題によって、いっそう明白になった。また、その「クアム、ドクトリン」の路線に佐藤は日本人民を巻き込むようとしている。

彼は今度の事件でいちけやくニクソンを支持し、「アジア安定の主役は日本である」といつて、カンボジア問題国際会議に愛知を出席させようとしている。そして、そのことはアジアの反共政権やカライ政権を利用してインドシナ問題に介入させ、アジア全人民を戦争に巻きこもうとするアメリカの危険な意図と一致している。同時に安保の一そのの改定である日米共同声明の着々とした更質化がカンボジア問題によって拍車をかけられてきている。共同声明はベトナムにおける勝敗は直接日本にかかわって来ると明記しているが故に、日本のカンボジア介入、それを合法化するための国内の反動的再編、軍国主義復活の策動が加速度的におし進められようとしている。

全学連はこの緊急事態にあたり、次のように訴えている。

「全学連は、佐藤内閣の侵略加担を激しく糾弾する。と共に六月の安保条約固定期限終期を前にして、安保条約を廢棄し、核も基地もない沖縄返還を實現し、中立、平和の日本への道を切り開くため、斗い抜くものである。・全学連は全日本の学友が、緊急に全力をあげた抗議の行動に立ちあがることを訴えるとともに、全民主勢力が共同の斗いを展開することを中心から呼びかける。」

全ての学友諸君へ

アメリカのカンボジア侵略を糾弾するとともに佐藤の侵略加担を許さず、好景盛衰、迎撃全面返還の斗いをきき取ることではないか。全学連を再建し、全中大四五〇の学生の手で大きな斗いをきき取ること。

全学連支持会議

入するということである。